

研究課題	教育支援センターに通う不登校児童・生徒への支援の在り方に係る実践研究
副題	～ICTを活用し、新たな人間関係の中で自尊感情や自立心を育てる工夫～
キーワード	不登校 自尊感情
学校/団体名	伊丹市教育支援センター「やまびこ」研究グループ
所在地	〒664-0881 兵庫県伊丹市昆陽1丁目213
ホームページ	なし

1. 研究の背景

文部科学省の調査では小・中学校の不登校児童生徒が6年連続で増加している。本市においても、平成31年度は、前年度1学期と比較して1.2倍と大きく増加しており、その対応は喫緊の課題である。「義務教育の段階における普通教育に相当する教育の機会の確保等に関する法律」が施行され、本市教育委員会においては、不登校児童生徒の学習活動に対する支援及び市の中核的な役割を果たすための「教育支援センター」を整備し、新たな教育支援センターの在り方を検討している。本市においては、平成4年に、市内の一軒家を借りて、適応指導教室「やまびこ館」として、不登校児童生徒の学校復帰を目指した指導を実施してきた。しかし、不登校児童生徒数が増加する中、居場所づくりだけではなく、キャリア教育を意識し社会で自立する子どもの育成を目指すという観点から、平成31年度より、教育支援センター「やまびこ」と名称を変え、場所を総合教育センター内に仮設移転し、ICTを活用した個別の計画表による学習活動や自分たちで企画した行事の運営等を取り入れた学習活動を行っている。令和2年度、幼稚園舎への移転を機に、さらに充実したICT環境を構築し、ICTを活用した学習を推進しているところである。

2. 研究の目的

教育支援センターに通う児童生徒については、発達等に課題のある者、学習についての個別の支援が必要な者が在籍している。自己肯定感や自己決定する力が弱い生徒も多い。また、昨今、対人関係に不安や恐怖を抱える生徒も増えてきた。文部科学省の教育支援センター整備指針にある定員10名に対し2名程度という限られた指導員が対応する中、今後ますます、個別の支援が求められる。そこで、より有効で幅広い教育活動を行うために、児童生徒の支援ツールとしてICTを活用した学習効果の研究に取り組むこととした。

伊丹市では、全児童生徒にID、パスワードを配布し、「みんなの学習クラブ」として動画解説のついたプリント配信システムを導入している。8月末からオープンした新教室ではさらに充実したICT環境を子どもたちへ提供していく。「自分たちは最先端の学びを享受している」ということが、子どもたちの自信につながり、自らの進路を主体的に捉え社会的にできる力や自己肯定感の育成に繋がることを調査研究し、広く発信していきたい。

3. 研究の経過

今年度、以下の内容で取り組んだ。

時期	取り組み内容	評価のための記録
7月	スマホ教室 ～スマホを正しく使おう～	ふりかえりカード
10月	「やまびこ力アップ」スタート	ふりかえりカード
	校外学習	写真・お礼の手紙入力
11月	食育教室 ～ハンバーグを作ろう～	動画中継・ふりかえりカード
12月	「やまびこ力アップ」 ～ぴかぴか力アップ 花壇に花を植えよう～	写真・記録カード
1月	「やまびこ力アップ」 ～スキル力アップ Zoomを使って話してみよう～	ふりかえりカード
2月	「やまびこ力アップ」 ～コミュニケーション力アップ ミニゲームで仲良くなろう～	ふりかえりカード
3月	「やまびこ力アップ」 ～今年度の行事をまとめ、来年度の見学者へやまびこを紹介しよう～	パワーポイント作り

4. 代表的な実践

4. 1 「やまびこ力アップ」

教育支援センター「やまびこ」を8月末に移転した。学習室、相談室、多目的室、グラウンドを完備し、不登校児童生徒が個別に学習・体験活動が行いやすい環境となった。「やまびこ力アップ」と銘打ち「スキルアップ」「コミュニケーション力アップ」「ぴかぴか力アップ」の3本柱を立てた。まず、10月末の校外学習に向け、ICT 機器を活用し、校外学習の計画を行った。校外学習周辺の調べ学習を行い、地名の由来や往復の経路を調べた。また、事前学習では、パワーポイントを使い、分かりやすく相手に伝える方法を示した。「やまびこ力アップ」の最終目標は、来年度、当施設を見学に来る不登校児童生徒に1年間の活動の様子をプレゼンテーションできるデジタル素材を作成することを伝え、学習をスタートさせた。

4. 2 校外学習

コロナ禍で体験活動の実施が困難である中、今年度、初めての校外学習を行い、兵庫県立神出学園で1日を過ごした。集団で過ごすことが苦手な生徒や、教育支援センター「やまびこ」に通う友だちと、初めて会話する機会となった生徒もいたが、体験プログラムを行う中で、

資料1 当日の様子



だんだんと打ち解けていった。後日、感想をパソコンで入力し、タイピング練習も合わせて行った。

生徒 A：「神出学園ではとても貴重な体験ができました。音楽や出店体験以外にもお昼には動物たちと触れ合い、きれいな芝生を散歩して心が癒やされました。はじめは何か迷惑をかけないか心配で緊張していましたが、スタッフのみなさんが優しくておもしろかったので、とても楽しい時間を過ごすことができました。」

生徒 B：「普段あまりできないことが体験できて、とても楽しかったです。友だちやスタッフの方と協力してプログラムを進めることが多く、とても良い経験になりました。」

生徒 C：「自分は知らない人とあまり話せないのですが、話しかけてくれて嬉しかったです。」

4. 3 食育教室

毎年行っている調理実習では、当日参加できない友だちと動画中継を行い、献立や作り方の工夫を紹介した。教育支援センター「やまびこ」では、行事への参加の有無を自己決定させているので、行事によっては、その内容を共有できないことが課題であった。今回、動画中継を行った理由は、自分の安心した場所で行事の様子を見ることによって、参加に不安を抱える児童生徒が、次は参加してみたいと思えるようになってほしいと考えたからだ。当日は、調理実習に参加したメンバーが作った料理を紹介し、参加しなかったメンバーが質問をした。動画中継をすることで、昼食を一緒に食べている感覚になり、次回への参加に意欲を見せた生徒もいた。

資料2 調理実習の様子



生徒 D：「教室の中にいる人でもどんなことをしているか、リアルタイムで知ることができるので、とても便利だと思った。しんどくて、行くことができなかった人でも、みんながどんな活動をしているのかがわかり、次に行ってみたいと感じるきっかけになると思うので、他の活動でも積極的に使ってほしいなと思った。」

生徒 E：「調理実習の人たちが食べているところをオンラインで見させてもらったのですが、みんなとても美味しそうにできています。僕は調理実習が苦手なのですが、少し参加できた気がして嬉しかったです。」

生徒 F：「今日は土をほぐしました。虫も出てきてびっくりしました。野菜を植えたいと思いました。みんなでカレーとか作ってもいいかなと思います。」

4. 4 「やまびこ力アップ」～ぴかぴか力アップ 花壇に花を植えよう～（全5回）

花壇に花を植えることを通して、植物を育てる喜びを持ち、気持ちよい環境を整えることを目的に行った。ICT 機器を活用し、今の季節に売っている花を調べたり、グループに分かれてどんな花壇にするかを相談したりした後、花屋に買い物に出かけ、協働して花壇を作った。

花壇の手入れ①

資料3 花壇の準備

(1)教育支援センター「やまびこ」周辺を歩き、今後ぴかぴかにする場所を確認する。

(2)花壇の手入れを行う。

生徒 F：「今日は土をほぐしました。虫も出てきてびっくりしました。野菜を植えたいと思いました。みんなでカレーとか作ってもいいかなと思います。」



花壇の手入れ②③

- (1) どんな花壇を作るか計画を立てる。
- (2) 植えたい花や野菜を調べる。

生徒G：「話し合いでみんなとしゃべれて嬉しかったです。また話し合いをしてみたいです。」

生徒A「私は今回からの参加でした。私はあまり意見を言うのが得意ではないので、みんなの意見にあわせて、参考になりそうな情報をタブレットで調べていました。お花の花壇にはカラフルなだけでなく、ほどよく緑を入れたり、際立つ青色のお花を入れたりするととてもきれいになると思います。」

生徒G：「僕は花のことはよく知らないのですが、いくつかタブレットで花を見ていたら可愛いと思う花や、名前は聞いたことがあるけど、こういう花なのかと、いろいろな花を知ることができました。」

花壇の手入れ④

- (1) 近所の花屋に植えたい花や野菜を買いに行く。

生徒H：「グループになっているんな意見を言い、どんな感じにするか想像しながら買いました。相談しながら買うのもいいなと思いました。」

生徒I：「お花をいっぱい買えて良かったです。カラフルな花が買えました。花屋さんは良い匂いがしました。」

花壇の手入れ⑤

- (1) 花や野菜を植える。

生徒F：「今日は、先週に買ったお花を植えました。工夫しながら花を植えられて楽しかったです。」

生徒D：「僕のグループは和風をイメージした花壇にしたいので、植え方も対称にして、一輪一輪のスペースを広く空けるように植えました。さらにコケを端から移植していき、最終的には土が見えないくらいに植えたいなと思っています。」

生徒J：「植物を植えました。最初はさびしいと思ったけど、コケと大木を置くと和風になりました。」

4. 5 「やまびこ力アップ」

～スキル力アップ Zoom を使って話してみよう～

教育支援センター「やまびこ」に通所している生徒は、グループで活動することの良さを感じてきた。そこで、次は少人数で話すことで、さらに相手のことをよく知るための手段として、Zoom を活用し、画面越しに話すことを行った。お互いに顔見知りにはなっているが、学

資料4 花を調べる



資料5 花を買う



資料6 花を植える



資料7 Zoom で会話



校や学年が違い個別に話したことはない友だちとも簡単な質問をやりとりすることができた。

生徒 B：「初めて Zoom 会議をした。思ったよりタイムラグがなくて、使いやすかった。」

生徒 J「会議みたいなのをしました。画面に映るのが苦手だから慣れようと思いました。」

4. 6 「やまびこ力アップ」

～コミュニケーション力アップ ミニゲームで仲良くなるう～

「やまびこ力アップ」の最終として、ミニゲームを行った。

資料8 ミニゲーム

今まで、ICT 機器を活用し、共に学習する楽しさや喜びを感じてきた。学年の終わりや卒業を迎えるので、ゲームを通して、直接触れあって過ごすことで、新たな楽しさを感じるとともに、人とつながる喜びを感じてほしいと計画した。



生徒 D：「普段、一緒にいる友だちや先生とこういったミニゲームをする事で、今まで以上に会話する機会が増え、毎日やまびこに通うのが楽しいと思うようになりました。」

生徒 E：「終わったら、もう少しやりたいなと思いました。ゲームは、最後に負けてしまって悔しかったです。」

4. 7 パワーポイントで年間行事のまとめ

来年度、見学に来る児童生徒のために、今年度、教育支援センター「やまびこ」で行った行事をパワーポイントでまとめることにした。今年度までは、職員が作成した資料で見学者に年間行事等を紹介していたが、来年度は、生徒たちが作成したものを見せたい。自分たちで作成することにより、自分たちの活動に自信を持たせたいと考えた。また、不登校児童生徒の中には、パソコンを活用している生徒が多くいる。デジタルで見せることや、在籍生が作ったこと、ここに通えば、ICTを活用した学習もできることを伝えることで、通所への関心を高め、期待を持って通所してほしいと考えている。

5. 研究の成果

表 1

やまびこアンケート	結果				
1～5段階で教えてください。 5が最高で、1が少しと考えてください。	5	4	3	2	1
①やまびこでの生活は楽しいですか。	10人	3人	1人	0人	1人
②スマホやタブレットは好きですか。	13人	0人	2人	0人	0人
③やまびこでもっと、タブレットやパソコンの学習があったらいいなと思いますか。	6人	5人	2人	1人	1人
④今の自分とやまびこに通う前の自分は、良い方向に変わっていると思いますか。	8人	4人	1人	2人	0人
⑤やまびこ力アップに参加した人に聞きます。スキル力アップ、ぴかぴか力アップ、コミュニケーション力アップの3つの力を普段の生活で意識するようになりましたか。	3人	2人	5人	0人	1人

教育支援センター「やまびこ」に通う児童生徒が今後社会で生きていくために必要な力として、ICT の活用を通して「スキルアップ」「コミュニケーション力アップ」「ぴかぴか力アップ」の

3つの力をつけることを目標に取り組んできた。学習のまとめとして行ったアンケート(15名)では、②の質問で5を選んだ生徒が13名(87%)いる。しかし、③の質問では5を選んだのは6人(40%)であった。スマホやタブレットは好きだが、ICTを活用した学習が有効であるとはあまり認識していないことが分かる。従来より、学習支援のツールとしてICTを活用してきたが、タブレットを活用してZoomで会話したり、プレゼンテーションを作ったりする取り組みは初めて行った。短期間であったので、ICTを活用した学習の可能性を広げるまでには至らなかった。しかし、この取り組みはICTを活用した学習の楽しさを知るきっかけとなった。GIGAスクール構想で1人1台の端末を活用していく子どもたちである。さらにICTを活用した学習を経験することで学習や活動の幅が広がり、学校や友だちとつながる一助になると期待している。

6. 今後の課題・展望

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、年間計画で決めていた行事を断念せざるを得ないことが多かった。経験が少ない子どもたちにたくさんの行事で、楽しさや達成感を味わわせる体験の機会は減った。しかし、本研究を進める中で、コロナ禍だからこそできる活動として、ICTを活用した活動を取り入れることにより、子どもたちの学習や活動の幅を広げ、自立の芽生えにつながることを実感した。今後は、ICT機器を有効に活用しながら取り組む学習や体験を増やし、子どもの可能性を伸ばしたい。例えば、調理実習で行ったように同時中継を行うことで、苦手と感じていた取り組みにも意欲を見せた子がいた。最近ではバーチャル工場見学なども行っている。ICTを活用すれば、初めての場所が苦手な子に、場所を移動せずにさまざまな体験をさせることも可能になると考える。学習面においては、タブレットを使って調べ学習に取り組んだり、伊丹市のプリント配信システムの解説動画を利用し、分からないときは解説動画を参考に自主学習が進められたりするなど主体的に学ぶ力の育成をめざす。さらに効果的なソフトを導入し、たくさんの児童生徒が通所しても、自立した学習ができる体制を作っていきたい。また、直接指導員と向き合って学習したり、毎日通所することが難しかったりする児童生徒もいるため、ICTを活用した学習への多様な参加の仕方を検討し、人間関係の構築や通所への意欲を高める工夫をしていくことも必要ではないかと考える。

7. おわりに

全国的に不登校児童生徒は増加傾向にある。また、今年度は新型コロナウイルス感染症のため、今まで不登校になっていなかった児童生徒も不安を抱える年であった。教育支援センター「やまびこ」は移転により、よりよい環境の元で学習できるようになった。今年度は、思うように体験活動が行えなかったが、子どもたちは、充実した施設やICTを活用することで他者とつながって学習する楽しさを感じることができた。不登校になった経緯はそれぞれ違うが、この場所で学習することを選択し、新たな出会いを見つけることができた。それぞれの子どもは、それぞれの心の傷があるが、そのことがマイナスにならず、今後の人生でプラスになるように願っている。そのためにも、今後もICTを活用した学習や活動を行い、個に応じた教育のあり方について研究していきたい。